

第1章 はじめに

1 研究主題

「豊かな心を基盤とした生きる力をはぐくむ学校教育に関する研究」

2 主題設定の理由

急速な科学文明、経済の進展は子どもたちの生活に様々な影響を与え、積極的な面がはぐくまれる一方、豊かな心情や主体的な姿勢形成の不十分さ、人間関係の表層化・希薄化、社会性の欠如などの問題が生じています。今後、社会はますます変化の激しい、先行き不透明な時代になっていくと考えられます。こうした中であって、子どもたちが自らの生命力を十分に発揮し、望ましい自己実現を図るためには、心豊かにたくましく人生を切り拓いていく生きる力が必要になってきています。

第15期中央教育審議会第一次答申では、「自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力」「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」「たくましく生きていくための健康や体力」などの「生きる力」を育成していくことが重要であると述べています。つまり、問題解決能力と豊かな人間性、健康や体力の総和としての「生きる力」をはぐくむことが、21世紀の我が国の教育の課題といえます。

こうした「生きる力」をはぐくむためには、知性と感性に裏打ちされた豊かな心の育成、共生の意識に根ざした自己の確立と社会性の育成が重要になっていると考えます。

そこで、本教育センターでは、研究主題を「豊かな心を基盤とした生きる力をはぐくむ学校教育に関する研究」とし、豊かな人間性を育てる支援の在り方を、小学校、中学校、高等学校における各教科・領域・総合的な学習の時間等を通して追究することをねらいとした研究を進めることとしました。

3 研究の仮説

変化の激しい社会にあって、子どもたちが望ましい自己実現を図るためには、豊かな知性と感性に裏打ちされた、問題解決能力をもつ「生きる力」を培うことが必要です。そして、その基盤となる豊かな心は、共生の意識に根ざした自己の確立の過程の中でこそ育ち、さらに豊かな社会的自立を図る中で培われることになると考えます。

そのためには、学校の様々な教育活動を通して、児童生徒一人一人が自己存在感を実感し共感的人間関係を育てる中で、自他の人権を尊重した共生の意識をはぐくむことが必要となります。そこで、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの発達段階に応じた支援を、各教科・領域・総合的な学習の時間等を通して総合的に行うことにより、豊かな心を基盤とする生きる力がはぐくまれるものと考えます。

さらに具体的に実践するため、次のような方策を設定します。

児童生徒が学校生活の中で、豊かな心を基盤とする生きる力をはぐくむ学習活動に取り組めるように、自己の確立、社会性の育成の視点に立ち、各教科・領域・総合的な学習の時間等の年間指導計画を立て、創意工夫した学習活動を展開する。

各教科・領域・総合的な学習の時間等に体験的活動や課題解決的な学習を取り入れ、児童生徒が意欲的かつ主体的に取り組むことで生きる力の育成につなげる。

日常の教育活動の場において児童生徒、教職員が自然や人々とのふれあいや感動体験を積み上げることにより、個々の児童生徒の内面的充実を図り、共生の意識の基盤となる共感的人間関係を育てる。

以上のような方策のもとに、各校種においてより具体的な研究主題を設定し、研究を進めます。

4 研究の内容と年次計画

(1) 内容

第15期中央教育審議会第一次答申等、国の諸答申の趣旨を踏まえ、全国教育研究所連盟第16期共同研究の研究主題に基づき、「豊かな心を基盤とした生きる力をはぐくむ学校教育」について、実践的な研究を実施します。

小学校、中学校、高等学校における児童生徒の特性を踏まえ、それぞれの校種の課題を明確にし、「豊かな心を基盤とした生きる力をはぐくむ学校」づくりを目指す内容を、各教科・領域・総合的な学習の時間等の年間指導計画に位置づけ、その実践を図る具体的な方策を探ります。

(2) 年次計画

ア 1年次(平成10年度)

(ア) 研究主題にかかわる理論等の基礎的研究を進めるとともに、「豊かな心を基盤とした生きる力」にかかわるアンケート調査を児童生徒及び教員に実施します。

その結果を整理、分析し課題を明らかにします。

(イ) 生きる力に関する実態調査の分析・考察を通して、小学校、中学校、高等学校における豊かな心を基盤とした生きる力の育成にかかわる方策を提起します。

イ 2年次(平成11年度)

1年次の研究の成果を踏まえ、研究協力校等を委嘱し、「豊かな心を基盤とした生きる力をはぐくむ学校教育」について実践的な研究を行い、より具体的な方策を提起します。